

セキショウモ *Vallisneria natans* (Lour.) H.Hara

【評価理由】

2015年版では「おそらくは過去に名古屋市域に生育していて絶滅したと思われるが、確実な資料がない」とした植物であるが、その後市内で採集された標本が確認された。

評価区分

名古屋市2020	絶滅
愛知県2020	リスト外
環境省2020	リスト外

【形態】

沈水性の多年生草本。茎は短く、葉を束生し、細くとげのない走出枝を出して栄養的に繁殖する。葉は線形、長さ15~70cm、幅3~7mm、先端は鈍頭~鋭頭、先端部の辺縁には小さい鋸歯があるが、中基部ではほぼ全縁となる。花期は8~10月、雌雄異株、雄花の苞鞘は長さ1.2~1.5cmで短い柄があり、中に多数の花ができる。雌性の苞鞘は円筒形、柄は水深に応じて長く伸び、水面に達して1個の花をつける。苞鞘の柄は花後らせん状に巻く。ただし、名古屋市産の標本は花をつけていない。殖芽は分化せず、走出枝の先端部の芽が越冬する。

【分布の概要】

【市内の分布】

港区（戸田川、榊原 靖 34, 1981-7-20, NBC）。同日に同所でコウガイモ（榊原 靖 37）も採集されている。上流からの流下個体は、中川区（下之一色町、高木順夫 8907, 2000-9-9）でも採集されたことがある。

【県内の分布】

名古屋市以外では、豊橋北部、豊橋南部、刈谷（絶滅）、西尾北部、尾張旭（絶滅）、小牧、北名古屋、愛西の8区画で確認されている。減少傾向の著しい水草であるが、愛知県では西尾市や小牧市に大きい群落があるので、リスト外と評価されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

アジア、オーストラリア。



【生育地の環境／生態的特性】

平野部の池沼や小河川に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

詳細は不明。水質の汚濁により絶滅したと思われる。

【保全上の留意点】

コウガイモ（2015年版44頁）と同様である。

【特記事項】

最近増加しているコウガイセキショウモ *V. ×pseudorosulata* S. Fujii et M. Maki は、葉の先端が円頭になることで容易に識別できる。

【関連文献】

保草本Ⅲp.392, 平草本Ⅰp.6, 平新版Ⅰp.124.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.29, 文一総合出版, 東京.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

マメダオシ *Cuscuta australis* R.Br.

【評価理由】

減少傾向の著しい寄生植物で、名古屋市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市2020	絶滅
愛知県2020	絶滅
環境省2020	絶滅危惧IA類

【形態】

1年生でつる性の寄生植物。茎は細く糸状で黄色を帯び、寄主にからみつく。茎上には薄膜質で卵形の鱗片葉がある。花期は7～10月、花は無柄で数個が束生し、花冠は長さ約2mmで5裂し、裂片は円頭、筒部内側の鱗片は先端が2裂し、少数の突起がある。がくは低い三角形で薄膜質、長さは花冠の1/2～1/3である。果実は蒴果でほぼ球形、直径約3mm、基部に花冠が残存する。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（東山村覚王山，久米道民 s.n., 1910-7-23, TNS）で採集された標本がある。ただしこの標本は、花冠内部の形態を確認していない。このほかMAKには、ラベルに「名古屋市千種区田代町」と書かれた標本がある。しかしこの地名は、標本送付者（岡田善敏氏）の住所と思われる。

市内分布図



【県内の分布】

名古屋市以外では、8 田原西部、13 豊川で採集された標本があるが、どちらの区画でも現存は確認できない。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、中国大陸、東南アジア、オーストラリア。

【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい野原などに生育すると言われる。名古屋市での生育環境については情報が無い。

【現在の生育状況／減少の要因】

「豆倒し」という名から推定すれば、かつては作物の害草になるくらいあったのかもしれないが、残されている資料が少なく、過去の状況はよくわからない。近似種の帰化植物アメリカネナシカズラ *C. pentagona* Engelm.が急増した頃から見られなくなったが、もともと少なかったために紛れてしまったのか、競争により排除されたのかもはっきりしない。

【保全上の留意点】

注意して探索すれば、再発見の可能性は残されている。

【特記事項】

アメリカネナシカズラは、花冠の裂片が鋭頭、筒部内側の鱗片は辺縁がふさ状に裂けるが2裂しない。

【関連文献】

保草本 I p.202, 平草本III p.58, 平新版 5 p.26, 環境省 p.111, 愛知県 p.67.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

セトヤナギスブタ *Blyxa alternifolia* (Miq.) Hartog

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布階級 3、総点 17。減少傾向の著しい水草で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2020	絶滅危惧 IA類
愛知県 2020	絶滅危惧 IA類
環境省 2020	絶滅危惧 IB類

【形態】

沈水生の 1 年生草本。茎は長さ 2～5cm になり、多数の葉を密につける。葉は線形、長さ 6～10cm、幅 3～5mm、先はしだいに細くなり、辺縁に細かい鋸歯がある。花期は 7～10 月、花は葉の間から出て、両性、円筒形で長さ 3～5cm の苞鞘があり、花弁は 3 個で白色、狭線形、長さ約 13mm である。種子は紡錘形、長さ約 2mm、尾状突起はなく、表面に 2～10 個の低い隆起がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根，村松正雄 28417，2015-10-5）。ただし同所にマルミスブタ、ヤナギスブタも生育しているので、人為的移入の可能性は否定しきれない。

【県内の分布】

名古屋市のほか、19 旭、37a 瀬戸、37b 尾張旭、38a 長久手、44b 南知多（区画数としては 4）で確認されている。42c 武豊で採集された標本もある。

【国内の分布】

本州（中部地方以西）。

【世界の分布】

東南アジアに分布する。



【生育地の環境／生態的特性】

水田やその周辺の小水路に生育する。名古屋市の生育地は辛うじて残された谷戸田である。

【現在の生育状況／減少の要因】

1 カ所で確認されているだけで、個体数も 2015 年は 2～3 株（1 年生草本なので個体数階級は 4）、2016 年もその程度であった。過去からの増減は不明であるが、耕作が放棄されればすぐに消滅する可能性が高い。

【保全上の留意点】

丘陵地の谷戸田は、周辺の里草地や二次林と共に、多様な生物の生育場所となっている。文化遺産としても重要である。注意して地形を保全すると共に、土地所有者が耕作を継続できるよう、あるいはそれが不可能なら、代表的な場所だけでも市民参加等の方策を講じて耕作状態を維持する努力が必要である。

【特記事項】

日本では愛知県瀬戸市で初めて確認された植物である（浜島 1982）。スブタとヤナギスブタの中間のような形態をしており、ヤナギスブタからは茎が短く、葉が長いことで区別できる。小型の個体は茎がほとんど伸長せず、むしろスブタと紛らわしい。

【引用文献】

浜島繁隆. 1982. 日本新産セトヤナギスブタ(新称). 植物研究雑誌 57: 223-224.

【関連文献】

平新版 p.119, 環境省 p.306, 愛知県 p.106, SOS 旧版 p.89+図版 24, SOS 新版 p.126,128.

角野康郎.1994. 日本水草図鑑 p.24. 文一総合出版, 東京.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

マルミスブタ *Blyxa aubertii* L.C.Rich.

評価区分

【評価理由】絶滅危惧IA類

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布階級 3、総点 17。減少傾向の著しい水草で、名古屋市で
は生育地が極めて少ない。

名古屋市2020	絶滅危惧IA類
愛知県2020	絶滅危惧II類
環境省2020	絶滅危惧II類

【形態】

沈水性の1年生草本。茎は短く、多数の葉を束生する。葉は線形、長さ8~20cm、幅4~6mm、
先端はしだいに細くなり、辺縁に細かい鋸歯がある。花期は8~10月、花は葉の間に束生し、両性、
苞鞘は円筒形で長さ3~5cmである。種子は楕円形で尾状突起がなく、長さ約1.5mm、表面には縦
方向に稜があり、細かい突起が散在する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区(吉根, 村松正雄 28146, 2015-10-5)。
天白区(平針, 井波一雄 s.n., 1967-9-16,
CBM130670)で採集された標本もある。

【県内の分布】

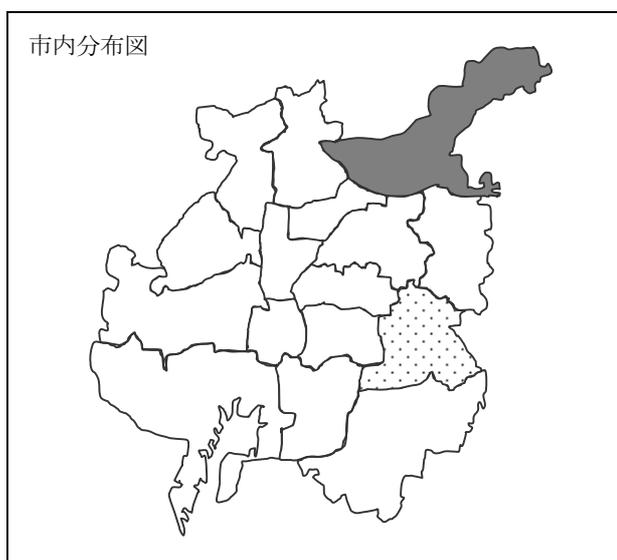
名古屋市以外に、21 下山, 24 豊田東部、45
犬山(花は紅紫色)、48 春日井の4区画で確
認されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸、インド、
オーストラリア。



【生育地の環境／生態的特性】

名古屋市では辛うじて残された谷戸田に生育している。愛知県及び岐阜県南部で確認した限りでは、名古屋市以外の生育地はいずれも丘陵地または山間部の水のきれいなため池である。

【現在の生育状況／減少の要因】

1カ所でセトヤナギスブタと共に確認されているだけで、個体数も2~3株であった。過去からの増減は不明であるが、耕作が放棄されればすぐに消滅する可能性が高い。

【保全上の留意点】

丘陵地の谷戸田は、周辺の里草地や二次林と共に、多様な生物の生育場所となっている。文化遺産としても重要である。注意して地形を保全すると共に、土地所有者が耕作を継続できるよう、あるいはそれが不可能なら、代表的な場所だけでも市民参加等の方策を講じて耕作状態を維持する努力が必要である。

【特記事項】

スブタからは種子に尾状突起がないことで区別されるが、この特徴を確認しない限り識別は困難である。

【関連文献】

保草本III p.396, 平草本I p.5, 平新版1 p.119, 環境省 p.540, 愛知県 p.402.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.24. 文一総合出版, 東京.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

ミカワシンジュガヤ *Scleria mikawana* Makino

評価区分

名古屋市 2020	絶滅危惧ⅠA類
愛知県 2020	絶滅危惧Ⅱ類
環境省 2020	絶滅危惧Ⅱ類

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布階級 2、総点 17。湿地性植物で、2015年版では絶滅と判断したが、その後再確認された。しかし、生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

1年生または多年生の草本。根茎はなく、根は赤紫色である。茎は少数が束生して直立し、灰緑色、3稜形、高さ 30~100cm になる。葉は茎上に互生してほぼ直立し、細い線形、長さ 10~40cm、幅 2~5mm、先端は次第に細まり、葉鞘は長さ 2~7cm で密に茎を包み、稜は鋭いが翼はない。花期は 7~10 月、花序は茎の先端と上半部の葉腋につき、2~4 個、長さ 2.5~4cm、枝は斜めに立ち、腋生のものの柄はほとんど葉鞘内にかくれる。小穂は長さ約 5mm、花は単性で、花被片はない。果実は球形、直径 2~2.5mm、網目状の紋があり、はじめ緑白色であるが、熟すと黒灰色になる。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（東谷山、村松正雄 30095、2018-10-21、NBC）。天白区（海老山町、渡邊幸子 4922、2001-10-13、NBC）、緑区（鳴海町水広下池付近、芹沢 59849、1991-8-23）で採集された標本もあるが、これらの場所では現存を確認できない。

【県内の分布】

名古屋市のほか、13 豊川、27 みよし、38a 長久手、38b 日進、41a 東海、42a 阿久比、42c 武豊、42 常滑（区画数としては 6）で確認されている。12 新城、15 豊橋北部、16 豊橋南部、32a 刈谷で採集された標本もある。

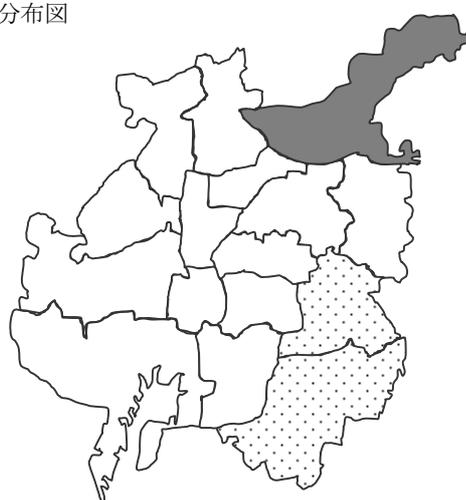
【国内の分布】

本州（千葉県以西）、九州の湿地にややまれに生育する。

【世界の分布】

日本、インドシナ、ニューギニア、インド、アフリカに分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の日あたりのよい湿地に生育する。多少攪乱された場所に生育していることが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では 2 株が確認された。天白区では造成地にややまとまった群落があったが、宅地化により絶滅した。緑区にもややまとまった群落があったが、宅地造成により埋め立てられ、絶滅した。

【保全上の留意点】

湧水湿地を、水源部の地形を含めて保全することが必要である。また豊橋市葦毛湿原では、一時ほとんど見られなくなったが、湿原回復のためイヌツゲを除去したところ、再度出現したと聞いている。この例から判断すれば、富栄養化を伴わない軽度の攪乱は、本種の存続のためにはかえって好都合らしい。もちろん大規模な攪乱があれば、消滅してしまう。

【特記事項】

「ミカワ」の名があるが、西三河、東三河では少なく、むしろ尾張に多い植物である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.255, 平草本Ⅰp.169, 平新版Ⅰp.361, 環境省 p.590, 愛知県 p.449, SOS 旧版 p.108, SOS 新版 p.107,108.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

ミズネコノオ *Pogostemon stellatus* (Lour.) Kuntze

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布階級 2、総点 15。低湿地性の水田雑草で、2015 年版では絶滅と判断したが、他の場所で現存しているのが確認された。しかしこの場所でも、遠からず消失する可能性が高い。総点は 15 であるが、このような状況を考慮し、絶滅危惧 IA 類と評価する。

評価区分

名古屋市2020	絶滅危惧 IA 類
愛知県2020	絶滅危惧 II 類
環境省2020	準絶滅危惧

【形態】

1 年生草本。茎は高さ 15～50cm で軟らかく、中央付近で多数の枝を出す。葉は 3～6 枚が輪生し、無柄、葉身は線形で長さ 2～6cm、幅 2～4mm、先端は鋭頭～鈍頭、辺縁は全縁である。花期は 8～10 月、茎および枝の先端に、長さ 2～5cm、幅 4～5mm の穂状の花序をつけ、花を密生する。花冠は白色または淡紅色、長さ約 2mm、雄ずいは長さ約 3mm で花外に突き出る。

【分布の概要】

【市内の分布】

北区（北久手町，小菅崇之，2019-10-9）。

【県内の分布】

名古屋市のほか、12 新城、13 豊川、28 額田、37a 瀬戸、46a 扶桑、48 春日井の 6 区画で確認されている。15 豊橋北部で採集された標本もあるが、ここでは現在のところ現存を確認できない。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球（徳之島）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア。



【生育地の環境／生態的特性】

水湿地、湿田、休耕田などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

近年名古屋市内では見られなくなっていた植物であるが、北区の水田で現存が確認された。現地では、大きい株は 10 株以下だが、小さい株まで含めると 20 株程度（1 年生草本なので個体数階級は 3）は生育していたという。しかしこの場所も近いうちに耕作が中断されるようで、本種もやがては消失すると思われる。北区の他の場所（如意 3 丁目）では 2003 年に生育が確認されたが、その後生育地にビルが建てられ、絶滅した。

【保全上の留意点】

本種が生育できるような湿田は、農地改良の結果、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在では逆に、過去の稲作形態を示す文化遺産として、保全の必要性が高くなっている。このような、従来行政的に「退治目標」とされてきた環境の保全は、今後の重要な課題である。

【特記事項】

名古屋市産の植物の彩色画は、2004 年版図版 6 に掲載されている。

【関連文献】

保草本 I p.172, 平草本 III p.83, 平新版 5 p.121, 愛知県 p.534, SOS 旧版 p.76, SOS 新版 p.138.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

カセンソウ *Inula salicina* L. var. *asiatica* Kitamura

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布階級 2、総点 16。草地性の植物で、2015 年版では絶滅と判断したが、2002 年に採集された標本があることが判明した。しかし、生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市2020	絶滅危惧IA類
愛知県2020	絶滅危惧IB類
環境省2020	リスト外

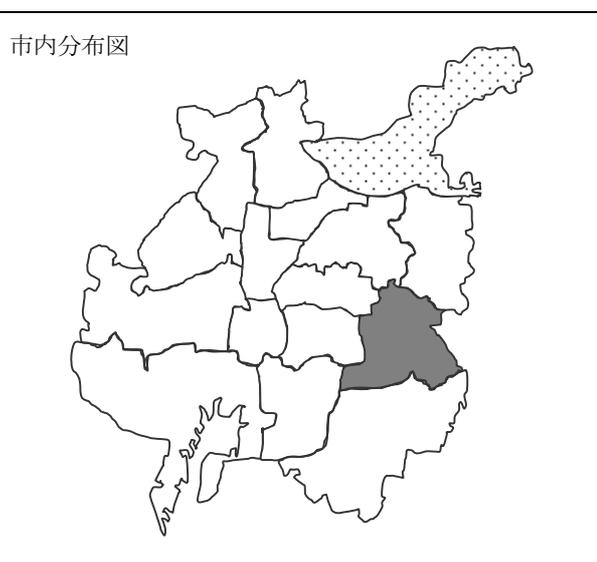
【形態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 50~80cm になる。葉は互生し、長楕円形~長楕円状披針形、長さ 4~8cm、先端は鋭頭、基部は茎を抱き、質はやや硬く、脈が目立つ。花期は 7~9 月、頭花は分枝した枝端に 1 個ずつ上向きにつき、基部に苞葉があり、黄色、直径 3.5~4cm である。総苞は半球形、総苞片は外側のものほど短く、白緑色、先端は緑色で多少なりとも葉状に開出し、辺縁以外は無毛である。そう果は長さ約 1.5mm、無毛、冠毛がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区(荒池緑地, 渡辺幸子 5142, 2002-8-1, NBC)。守山区の愛知用水沿いにも生育していたようで、写真が安原(1990)に掲載されている。



【県内の分布】

新城、豊川、豊橋北部、日進、東海、阿久比、常滑の 7 区画で確認されているが、阿久比と常滑では絶滅し、東海でもすでに絶滅している可能性が高い。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア。基準変種は茎に毛が少ないもので、ヨーロッパからシベリア西部にかけて分布している。

【生育地の環境/生態的特性】

日あたりのよい乾いた草地に生育する。「湿地に生育する」と書かれている文献もあるが、通常湿地には生育しない。

【現在の生育状況/減少の要因】

天白区の状況はよくわからない。個体数階級は見込み値である。守山区では小群落があったらしいが、愛知用水の改修工事により絶滅した。

【保全上の留意点】

愛知用水などの幹線水路わきの草地は、管理上の理由で定期的に草刈りが行われるため、全体的に草地が減少する中で、多くの草地性植物の逃避地になっている。水路の改修にあたっては、このような植物の最後の生育場所を奪わないよう、特に配慮が必要である。

【特記事項】

オグルマ *I. britannica* L. subsp. *japonica* (Thunb.) Kitam. はやや湿った草地に生育し、葉が薄く、そう果の表面に毛がある。

【引用文献】

安原修次. 1990. なごや野の花 p.87. エフエー出版, 名古屋.

【関連文献】

保草本 I p.172, 平草本III p.83, 平新版 5 p.121, 愛知県 p.358, SOS 旧版 p.76, SOS 新版 p.138.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

クロモジ *Lindera umbellata* Thunb.

評価区分

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布階級 1、総点 14。愛知県東三河の山地では普通に見られる植物であるが、尾張では稀である。名古屋市では生育地も個体数も少ない。

名古屋市 2020	絶滅危惧IB類
愛知県 2020	リスト外
環境省 2020	リスト外

【形態】

落葉性の低木。高さ数 m になる。若枝は黄緑色で無毛。葉は互生し、長さ 0.5~2cm の柄があり、葉身は倒卵状長楕円形、長さ 6~10cm、幅 2~3cm、先端は鈍端のことも鋭尖頭のこともある。葉裏にははじめ絹毛があるが成葉では無毛になり、やや白色を帯びる。花は 4 月に咲き、黄緑色で直径 6~7mm、十数個が散形につく。花柄は長さ 4~6mm で、白色の絹毛がある。果実は球形、直径 5~6mm、秋に黒色に熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区 (大森北, 村松正雄 28437, 2017-4-9)。天白区 (土原, 渡辺幸子 2647, 1996-5-27) で採集された標本もある。

【県内の分布】

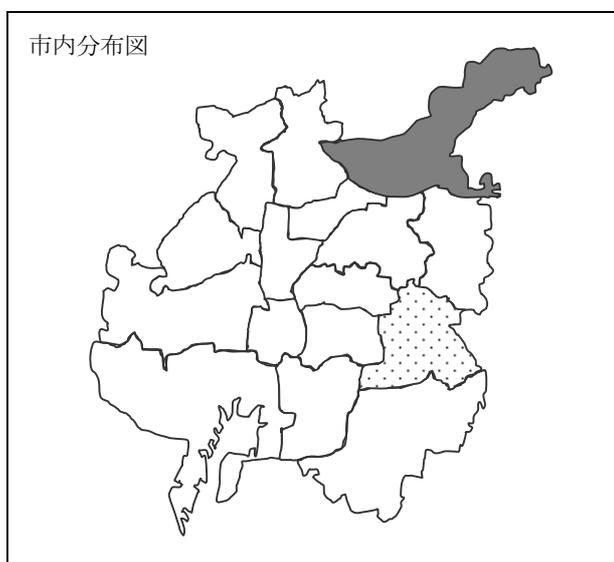
東三河の山地には広く分布しており、豊橋北部などの低山地にも見られる。西三河では、東北部の山地には比較的多いが、それ以外では少ない。尾張では、名古屋市以外は 37a 瀬戸、38b 尾張旭で確認されているだけである。

【国内の分布】

本州 (関東地方以西)。

【世界の分布】

日本固有種。



【生育地の環境／生態的特性】

自然林、二次林、人工林の下層木として生育し、沢沿いから尾根まで見られる。山地には多いが丘陵地では稀である。ヒメクロモジと同じような場所に生育し、しばしば混生する。ただし尾張では、ヒメクロモジよりずっと稀である。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では 2 株確認されているだけだが、この 2 株は高さ 3m 程度に育っており、花も実もよくつける。天白区では竹林内に幼株があったというが、2009 年の調査では消失していた。

【保全上の留意点】

生育地の林を保全する必要がある。種子は鳥によって散布されるので、そのうちに他の場所でも出現する可能性がある。

【特記事項】

材に芳香があり、楊枝として使用される。ヒメクロモジからは、花序が大きく(従って秋期の花芽も丸くふくらむ)、小花柄の毛は白色、葉柄は概して長く、葉身先端部はしばしばあまり尖らず、葉裏は淡緑色で絹毛が少ないことで区別できる。

【関連文献】

保木本Ⅱp.191-192, 平木本Ⅰp.118
小山博滋, 1987. クロモジ群の分類と分布. 植物分類地理 38:161-175.
芹沢俊介, 2009. クロモジとヒメクロモジ. くさなぎおごけ(3):8-10.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

ヤナギスブタ *Blyxa japonica* (Miq.) Maxim.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布階級 1、総点 14。水田や小水路に生育する水草で、名古屋
市では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

評価区分

名古屋市2020	絶滅危惧IB類
愛知県2020	準絶滅危惧
環境省2020	リスト外

【形態】

沈水生の1年生草本。茎は多少分岐し、長さ5~30cmになり、多くの葉をつける。葉は無柄で線形、長さ3~5cm、先はしだいに細くなり、辺縁には微細な鋸歯がある。花期は8~10月、花は葉の間につき、両性、円筒形で長さ18~20mmの苞鞘があり、花弁は3個で白色、線形、長さ7~8mmである。種子は長楕円形、長さ約1.5mm、表面は平滑である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区(吉根, 村松正雄 28148, 2015-10-5)。
天白区(八事, 井波一雄 s.n., 1949-9-11, CBM149649)、緑区(徳重, 浜島繁隆 s.n., 1968-8-30)で採集された標本もある。

【県内の分布】

スブタ類の中では最も多い種類で、山間部から丘陵地にかけて点在している。尾張では名古屋市のほか、37a 瀬戸、37b 尾張旭、38b 日進、42a 阿久比、42b 半田、44b 南知多、45 犬山、47 小牧、48 春日井で生育が確認されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。



【生育地の環境／生態的特性】

湧水のある谷戸田やその周辺の小水路などに生育する。名古屋市の生育地もそのような場所である。

【現在の生育状況／減少の要因】

1枚の水田に十数株(1年生草本なので個体数階級は3)が生育していたが、隣接する水田には見当たらなかったとのことである。過去からの増減はよくわからないが、以前この場所を調査したときには、スブタ類には気付かなかった。いずれにしても、耕作が放棄されればすぐに消滅する可能性が高い。

【保全上の留意点】

丘陵地の谷戸田は、周辺の里草地や二次林と共に、多様な生物の生育場所となっている。文化遺産としても重要である。注意して地形を保全すると共に、土地所有者が耕作を継続できるよう、あるいはそれが不可能なら、代表的な場所だけでも市民参加等の方策を講じて耕作状態を維持する努力が必要である。

【関連文献】

- 保草本III p.395, 平草本 I p.5, 平新版 I p.119, 愛知県 p.571.
- 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.24. 文一総合出版, 東京.
- 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.84. 文一総合出版, 東京.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

トチカガミ *Hydrocharis dubia* (Blume) Backer

評価区分

名古屋市2020	絶滅危惧IB類
愛知県2020	絶滅危惧IB類
環境省2020	準絶滅危惧

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布階級 2、総点 13。低地性の水草で、名古屋市ではしばらく現存が確認できなかったが、2017年に再確認された。現状をそのまま見れば総点 13 で絶滅危惧II類になるが、生育状況が不安定である可能性を考慮し、絶滅危惧IB類と評価する。

【形態】

水面に浮遊する多年生草本。茎は長く、水中を横にはい、節から根と数枚の葉を出す。葉は長さ4~20cmの柄があり、柄の基部に2個の托葉がある。葉身は円心形、直径4~7cm、全縁で、裏面の中央に気泡があり、水面に浮かぶ。花期は8~10月、花は柄が伸びて水面で開花し、雌雄異花、雄性の苞鞘内には約5個のつぼみができ、雌性の苞鞘内には雌花が1個だけ発達する。雄花、雌花ともに花弁は3個で白色、長さ10~13mmである。冬には水中茎の先端が長さ2~4cmの殖芽となり、水中に沈んで越冬する。

【分布の概要】

【市内の分布】

中区（名古屋城堀、西部めぐみ s.n., 2019-10-3, NBC）。中川区（富田町戸田, 高木順夫 446, 1992-9-6; 同長須賀, 高木順夫 236, 1992-7-11）、港区（西福田戸田川, 浜島繁隆 s.n., 1981-7-31）で採集された標本もある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊橋南部、西尾南部、東海知多、一宮西部、稲沢、津島愛西、海部南部の7区画で確認されているが、かなりの区画ですでに絶滅していると思われる。豊橋北部と常滑で採集された標本もある。濃尾平野では、以前はあちこちにあった水草らしい。

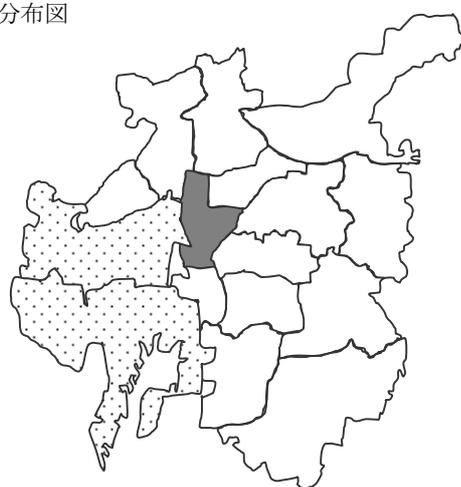
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本から南アジア、オーストラリアにかけて分布する。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部の湖沼、ため池、水路などに生育する。一般に富栄養の、しかし過栄養でない水域に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

中区では、1967年採集の標本はあるが、その後消失していた。しかし2017年になって、名古屋城外堀で再確認された（寺本・小菅 2018）。その時は個体数も僅かだったので、パブリックコメント時のリストでは絶滅危惧IA類と評価したが、2019年には個体数が急速に増加しており、双眼鏡で確認したところ浜島（1996）の記録にある堀内の他の場所でも生育している（そのため埋土種子由来と判断される）、愛知県内で現存する最大の群落と思われるまでになった。水質の汚濁と改善が、減少および増加の原因と思われる。中川区では富田町の水田や水路にかなり生育していたが、おそらくは除草剤の使用や生活排水が流入して水が汚染されたことにより、絶滅した。

【保全上の留意点】

愛知県の水草は全般的に危急状態であるが、本種のような平野部に生育する水草は、特に危機的である。平野部に「めだかの学校」が見られるような澄んだ水辺を取り戻すことは、絶滅危惧種があるなしにかかわらず、重要な課題である。

【引用文献】

- 浜島繁隆. 1996. 名古屋城外堀の水生植物の変遷. ため池の自然 24:4-5.
寺本匡寛・小菅崇之. 2018. 37年振り名古屋城外堀で再確認されたトチカガミの生育状況. なごやの生物多様性 5:47-51.

【関連文献】

- 保草本Ⅲp.396, 平草本Ⅰp.4, 平新版Ⅰp.121, SOS旧版p.90+図版22., 愛知県p.231.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.28. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド日本の水草 p.92. 文一総合出版, 東京

(西部めぐみ 芹沢俊介)

タシロラン *Epipogium roseum* (D.Don) Lindl.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布階級 2、総点 14。近年全国的に増加している腐生ランで
あるが、名古屋市では現在のところまだ生育地が少ない。

評価区分

名古屋市2020	絶滅危惧IB類
愛知県2020	準絶滅危惧
環境省2020	準絶滅危惧

【形態】

腐生の多年生草本。根茎は長さ 2~4cm、直径 1~2cm の楕円形の塊茎になる。地上茎は根茎の先端から 1 本出て、高さ 25~40cm、黄白色、5~7 個の膜質の鱗片葉をつける。花期は 7 月、茎の上部に茎と同色の花を 10~20 個つける。苞は広披針形~卵形、長さ 8~12mm である。がく片は狭披針形、長さ 8~9mm、側花弁はやや幅が広い。唇弁は卵形、がく片とほぼ同長、全縁、外面はふくれ、内面に 2 本のトサカ状の隆起条があり、距は楕円形、長さ 3~4mm である。果実は花後まもなく熟し、地上部はやがて消失する。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（八事裏山、西部めぐみ s.n., 2019-6-26, NBC）。

【県内の分布】

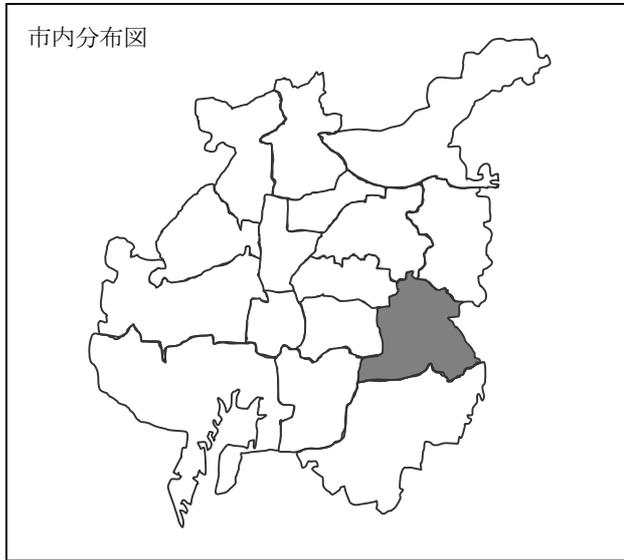
名古屋市のほかに、12 新城、13 豊川、14 蒲郡、15 豊橋北部、41b 知多、44a 美浜の 6 区画で確認されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、インドシナ、インド、マレーシア、オーストラリア。



【生育地の環境／生態的特性】

常緑広葉樹林の暗い林床に生育する。もともとは極めて稀少な植物であったが、近年増加傾向にあり、あちこちで新しい自生地が報告されている。

【現在の生育状況／減少の要因】

常緑広葉樹林へと遷移が進みつつある二次林の林床に、20 株程度の小群落があった。周辺を探索したが、この群落以外は発見できなかった。過去からの増減は不明であるが、おそらくは照葉樹林化の進行に伴って近年定着したものと思われる。

【保全上の留意点】

今後の増減によって配慮の必要度は変わってくるが、とりあえずは生育地の林を保全することが必要である。

【特記事項】

全国的に増加傾向にあることから考えれば「絶滅は危惧されない」という判断も成り立つが、現状では名古屋市内の自生地はまだ少ないので、他種と同様の基準で評価しておく。

【関連文献】

保草本Ⅲp.32, 平草本Ⅰp.203, 平新版Ⅰp.199.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

アキザキヤツシロラン *Gastrodia verrucosa* Blume

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、
県内分布階級 3、総点 14。里山に生育する腐生植物で、名古屋市
では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市2020	絶滅危惧IB類
愛知県2020	絶滅危惧II類
環境省2020	リスト外

【形態】

腐生の多年生草本。根茎は長さ 2.5~5cm、直径 4~10mm の紡錘状の塊茎になる。地上茎は根茎の先端から 1 本出て、高さ 5~12cm、数個の膜質の鱗片葉をつける。花期は 9 月下旬~10 月、茎の先端部に黒褐色の花を 2~6 個つける。苞は卵形、長さ 3~6mm である。花は 3 がく片が合着して長さ 10~12mm の鐘状になり、花柄は花時には長さ 1cm 以下であるが、花後著しく伸長して 30~45cm に達する。果実は晩秋に熟し、細長い楕円形、長さ 2~3.5cm、直径 7~8mm、暗黄褐色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（庄内川、長谷川泰幸 s.n., 2016-11-11, NBC2145）。

【県内の分布】

古屋市のほか、15 豊橋北部、17 田原東部、18 田原西部、29 岡崎北部の 4 区画で確認されている。

【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球、小笠原。

【世界の分布】

日本からマレーシアにかけて分布する。



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の常緑広葉樹林、竹林などの林床に生育する。名古屋市の自生地は河川敷の林内であるという。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市での生育状況は発見者が報告する予定と聞いている。愛知県内では、豊橋市から渥美半島にかけて点在しており、個体数も場所によってはかなり多い。里山の森林化の進行により増加傾向にあるのではないと思われる。

【保全上の留意点】

今後の増減によって配慮の必要度は変わってくるが、とりあえずは生育地の林を保全することが必要である。

【特記事項】

地表近くに黒褐色の花をつけるため、花時にはほとんど発見できない。クロヤツシロラン *G. pubilabiata* Sawa からは、花がややまばらにつき、唇弁の上面に毛がないことで異なる。

【関連文献】

保草本Ⅲp.27, 平草本Ⅰp.204, 平新版Ⅰp.203, 愛知県 p.413.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

オオバギボウシ *Hosta montana* F. Maekawa

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布階級 2、補正+1 (尾張で希少)、総点 16。山地性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。総点は 16 であるが、典型的なものではないので、絶滅危惧 IB 類と評価する。

評価区分

名古屋市 2020	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2020	リスト外
環境省 2020	リスト外

【形態】

多年生草本。地下茎は短くはう。葉は束生し、長さ 20~50cm の柄があり、葉身は卵形~卵状楕円形、長さ 15~30cm、先端は鋭尖頭、基部は円形~心形、葉脈は裏面に隆起し、脈上に多少の小突起がある。花期は 6~8 月、花茎は高さ 50~100cm になり、上部に多数の花をつける。苞は扁平で長さ 2.5~4 cm、鋭頭、典型的なものではつぼみの時から開出し、星形になる。花は淡紫色またはほとんど白色、長さ 4~5cm、広筒部は急に、または次第に太くなる。果実はよく形成される。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区 (吉根, 村松正雄 29721, 2018-6-24, NBC)。このほか同区の愛知用水沿いで撮影された写真が安原 (1990) に掲載されているが、この場所では絶滅したらしく、標本資料も残されていない。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地に点在しているが、尾張では名古屋市以外は 37a 瀬戸で採集されているだけである。

【国内の分布】

北海道西南部、本州、四国、九州に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。



【生育地の環境/生態的特性】

山地や丘陵地の草地に生育する。名古屋市では二次林の林縁に生育している。

【現在の生育状況/減少の要因】

現地は周辺の樹木が次第に生長しており、被陰されて衰退している。愛知用水沿いの集団は、用水の改修により絶滅したと思われる。

【保全上の留意点】

個別的な保全が必要である。

【特記事項】

オオバギボウシとキヨスミギボウシは一般に別種とされており、前者は後者から苞がつぼみの時から開出し星形になることで区別されることになっている。しかし実際には、川岸の岩場などに生育するものは明らかにキヨスミギボウシだが、三河山間部の草地などに生育するものは中間型が多く、両者を明確に区別することは困難である。今回引用した名古屋市の標本も、正確に言えば典型的なオオバギボウシではなく、オオバに近い中間型である。同所で採集された芹沢 82959 (2008-7-26) は、よりキヨスミギボウシに似ている。そのようなわけで本種の同定にはやや問題が残るが、今回はそれを承知の上で、オオバギボウシとして評価しておく。キヨスミギボウシは、名古屋市では守山区 (庄内川川岸, 日比野修 4549A, 1998-6-28 など) で採集されており、緑区 (鳴海町笹塚, 渡辺幸子 4775, 2001-6-29) の標本も葉だけであるが、この種と思われる。

【引用文献】

安原修次, 1990. なごや野の花 p.90. エフエー出版, 名古屋.

【関連文献】

保草本Ⅲp.138, 平草本Ⅰ p.32, 平新版Ⅰ p.251.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

ケヤブハギ *Desmodium podcarpum* DC. subsp. *fallax* (Schindl.) H. Ohashi

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布階級 1、総点 14。名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。

評価区分

名古屋市 2020	絶滅危惧IB類
愛知県 2020	リスト外
環境省 2020	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は高さ 60～120cm になる。葉は茎の下方に集まってつき、長い柄があり、葉身は 3 出葉、頂小葉は卵形～広卵形、長さ 6～13cm、幅 4～10cm、先端はやや鋭尖頭、基部は広くさび形、両面に毛が多い。花期は 7～9 月、花序は茎頂につき、通常少数の枝を分け、長さ 15～50cm、多数の小花をつける。花は帯紅紫色で長さ 3～5mm、花柄は花時には短い、花後伸長する。節果は 2 節からなり、若時紅色をおび、長さ 5～9mm の柄がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑区(大高緑地、芹沢 95680, 2019-9-2)。

【県内の分布】

東三河、西三河では比較的多い植物であるが、尾張では少なく、名古屋市以外は 37a 瀬戸、44b 南知多、45 犬山で確認されているだけである。

【国内の分布】

本州(山形・宮城県以南)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は低山地の林内や林縁に生育する。ヌスビトハギに比べやや安定した場所に生育していることが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、常緑樹林化が進む二次林の林床に、2 株生育していた。ただし他になかったかどうかは十分確認していない。

【保全上の留意点】

生育地の林を保全することが必要である。

【特記事項】

ヤブハギ subsp. *oxyphyllum* (DC.) H. Ohashi var. *mandshuricum* Maxim. は山地性の植物で、名古屋市を含む尾張では確実な記録がない。ヤブハギとヌスビトハギの中間型であるオイハギは、名古屋市では守山区(翠松園、鳥居ちゑ子 2392, 2003-10-14)、天白区(荒池緑地、芹沢 95832, 2019-9-21)、昭和区(八事本町、渡辺幸子 4005, 1999-9-11)に生育している。

【関連文献】

保草本Ⅱp.102, 平草本Ⅱp.204, 平新版Ⅰp.272.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

コミゾソバ *Persicaria mikawana* Hanai et Seriz.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布階級 2、総点 14。愛知県や岐阜県東濃地方では点在するが全国的には稀少な植物で、名古屋市では 2019 年に 110 年ぶりに生育が確認された。

評価区分

名古屋市 2020	絶滅危惧 IB 類
愛知県 2020	準絶滅危惧
環境省 2020	リスト外

【形態】

1 年生草本。主軸は長さ 15~80cm、基部はあまり倒伏せず、閉鎖花序枝を出さない。葉は 1~3.5cm の柄があり、葉身は長さ 3~7cm、幅 2~5cm、先端は突出して鈍端、基部は浅い心形、頂裂片は卵状五角形で基部ははっきりくびれ、側裂片は葉長の割に大きくてほとんど円頭になる。花期は 8~9 月、花序は小さく、少数の花をつける。花序群も少数（しばしば 1 個のみ）の花序からなる。がくは長さ 3~4mm、帯紅色または帯緑色、そう果は淡褐色でやや光沢があり、長さ約 3mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

緑区（芹沢 95855, 2019-9-21）。千種区（旧千種村, 天野景従 s.n., 1910-10-23, MAK）で採集された標本もある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、4 津具、11 作手、5 稲武、21 下山、28 額田、30 岡崎南部、37a 瀬戸、45 犬山の 8 区画で確認されている。

【国内の分布】

本州（福島県~兵庫県）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地~山地の、やや貧栄養の、しかし極度に貧栄養ではない湿地の、林縁や林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、残存緑地の林縁の流れに沿った湿地に小群落があった。

【保全上の留意点】

いつ開発されてもおかしくない場所で、生育地の個別的保全が必要である。

【特記事項】

2008 年に新種として記載された植物で（花井・芹沢 2008）、基準標本産地は岡崎南部の北山湿地である。愛知県では、下山の一部と岡崎南部（池金町）の北山湿地には比較的多いが、他はどこも小群落である。

【引用文献】

花井隆晃・芹沢俊介, 2008. 日本のミゾソバ類. シデコブシ 1: 3-26.

【関連文献】

平新版 4 p.93, 愛知県 p.633.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

キツリフネ *Impatiens noli-tangere* L.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布階級 1、補正+1 (尾張で希少)、総点 14。山地性の植物で、東三河、西三河には点在するが、名古屋市では極めて稀である。

評価区分

名古屋市2020	絶滅危惧IB類
愛知県2020	リスト外
環境省2020	リスト外

【形態】

全草無毛の一年生草本。茎は枝を分け、高さ 50~80cm になる。葉は互生し、下方のものは長さ 3~5.5cm の柄があり、葉身は長楕円形~卵形、長さ 4~10cm、幅 2~6 cm、先端は通常鈍頭~円頭、基部は鋭形、辺縁には粗い鈍鋸歯がある。花期は名古屋市では 6 月中旬~7 月上旬だが山地では 9 月まで咲いており、葉腋から下垂した総状花序に 3~5 花をつける。花は長さ 25~45mm、唇弁は太い筒状で黄色、内面に赤褐色の斑点があり、後部は次第に細くなり、距は湾曲して下に伸びる。果実は広線形、長さ 1.5~2.5cm、裂開して種子をはじき飛ばす。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区 (山香町, 村松正雄 29724, 2018-6-30, NBC)。

【県内の分布】

東三河、西三河の山地には点在するが尾張では極めて少なく、名古屋市以外では 37a 瀬戸と 41a 東海 (後者は移入の可能性もある) で確認されているだけである。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

東アジアのほか、シベリア、ヨーロッパ、北アメリカに広く分布する。



【生育地の環境/生態的特性】

通常は山地の沢沿いや林内のやや開けた場所に生育する。

【現在の生育状況/減少の要因】

小川の岸に小群落がある。現地は名古屋市内では奇跡的に開発を免れた、やや深山的な感じのする場所である。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全すること、川に生活排水が流入しないよう注意し、水質を維持することが必要である。

【関連文献】

保草本Ⅱp.72, 平草本Ⅱp.235, 平新版4p.173.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

アリドオシ *Damnacanthus indicus* C.F.Gaertn.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布階級 1、補正+1 (尾張で希少)、総点 14。東三河、西三
河には点在するが、名古屋では極めて稀である。

評価区分

名古屋市2020	絶滅危惧IB類
愛知県2020	リスト外
環境省2020	リスト外

【形態】

高さ 20~60cm の常緑低木。根は数珠状に肥厚しない。葉は対生し、短い柄があり、葉身は卵形
~広卵形、長さ 15~27mm、幅 10~20mm、革質で全縁、先端は鋭頭~鋭尖頭、基部はくさび形~
円形、とげは葉に十字対生するように出て長さ 8~20mm、通常葉の 2/3 より長い。花期は 4~5 月、
花は枝先または葉腋から出る短枝の先に 2 個ずつつき、短い柄があり、花冠は白色、花筒は長さ 8
~12mm、裂片は斜開~開出し、卵形で鋭頭、長さ 2.5~4mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区 (東谷山, 村松正雄 29352,
2016-9-12)。

【県内の分布】

東三河、西三河の低山地には点在するが、
尾張では極めて少なく、名古屋市以外では 47
小牧で確認されているだけである。

【国内の分布】

本州 (関東以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、中国大陸。



【生育地の環境/生態的特性】

通常常緑樹林の林床に生育する。名古屋市では、沢に沿った急傾斜地の林内に生育していた。

【現在の生育状況/減少の要因】

個体数は、大きい株が 3 株、小株を合わせても 10 株に満たない程度であった。過去からの増減は
よくわからない。

【保全上の留意点】

東谷山は、名古屋市内では唯一の山地的な地形の場所で、本種を含めて、名古屋市内ではここに
しか見られない植物が多数生育している。開発を避け、森林を保全することが必要である。

【特記事項】

やや離れた場所には、ホソバオオアリドオシ (ホソバニセジュズネノキ) var. *lancifolius* Makino
も生育している。

【関連文献】

保木本 I p.61, 平木本 II p.200, 平新版 4 p.271.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

コカモメヅル *Tylophora floribunda* Miq.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布階級 1、総点 14。名古屋市では生育地も個体数も極めて
少ない。

評価区分

名古屋市2020	絶滅危惧IB類
愛知県2020	リスト外
環境省2020	リスト外

【形態】

多年生草本。茎はつる性で、長く伸びる。葉は対生し、長さ1~2.5cmの柄があり、葉身は三角状卵形~長卵形、長さ4~8cm、幅1.5~4cm、先端は鋭尖頭、基部は心形、辺縁は全縁である。花期は7~8月、花序は葉腋から出て大きくまばらに分枝し、小花柄は細く長さ4~10mm、花冠は暗紫色で5裂し、直径4~5mmである。果実は双生して水平に開出し、分果は披針形、長さ3.5~4.5cmである。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味、横井晴正 s.n., 2004-6-27）。

【県内の分布】

丘陵地~山地に点在するが、それほど多いものではない。尾張では名古屋市のほか、37a 瀬戸、38a 長久手、45 犬山、47 小牧、48 春日井で生育が確認されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境/生態的特性】

林縁の草地に生育することが多い。

【現在の生育状況/減少の要因】

名古屋市の自生地は庄内川の堤防らしい。堤防の外側にも内側にもあるようなので、個体数階級はとりあえず3として評価した。

【保全上の留意点】

おそらくは個別的な保全が必要である。最近見たという話も聞くので、何はともあれ現状確認が求められる。

【関連文献】

保草本 I p.210, 平草本 III p.43, 平新版 4 p.319.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

ヒナノシャクジョウ *Burmattia championii* Thwait.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、県内分布階級 2、総点 13。森林性の腐生植物で、名古屋市では生育地も個体数も極めて少ない。生育地が保護されており森林化進行の影響も受けないことから、人為圧はなし（階級 1）として評価した。

評価区分

名古屋市 2020	絶滅危惧II類
愛知県 2020	準絶滅危惧
環境省 2020	リスト外

【形態】

腐生の多年生草本。根茎は球状にふくらみ、多数のひげ根がある。茎は直立し、白色、高さ 3~8cm である。葉は互生し、鱗片状に退化し、披針形、長さ 2~4mm である。花期は 8~10 月、花は茎の先端に 2~10 個が頭状に集まってつき、白色で無柄、外花被片は筒状に合着して 3 稜形となり、長さ 6~10mm、裂片は 3 角形で長さ 1.5mm 程度、内花被片はへら形で小さい。果実は蒴果で倒卵円形、長さ 2.5mm 程度である。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（東山植物園，西部めぐみ s.n., 2019-9-4）。守山区（東谷山，山田果与乃 413, 1998-8-30）でも採集されたことがある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、8 鳳来北東部、15 豊橋北部、20 足助、21 下山、24 豊田東部、30 岡崎南部、37a 瀬戸、45 犬山の 8 区画で確認されている。

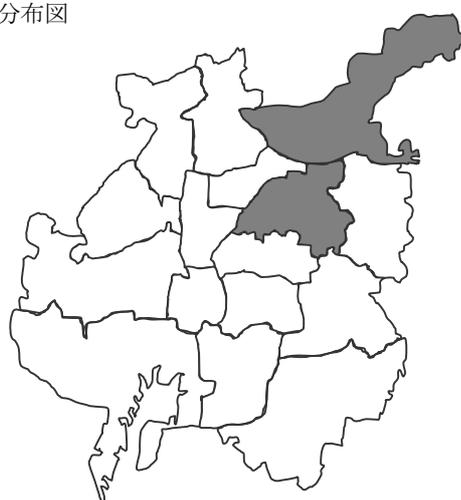
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、中国大陸南部、マレーシア、インド、スリランカ。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

林内の湿った場所の、落葉の間に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

千種区では、2m 四方ほどの範囲に 16 株が確認された。里山の森林化は、大部分の植物にとって脅威であるが、本種の場合はむしろ好都合で、そのため最近になって愛知県でも新産地がいくつか発見されている。ただし守山区では、2002 年には 5~6 株が確認できたが、里山保全活動のために林床が踏み荒らされ、2008 年以降は確認できていない。

【保全上の留意点】

今回生育が確認された場所は植物園内で、管理者も本種の存在を意識しているので、当面消失の恐れはない。一般論としては、生育地の森林を保全することが必要である。里山保全活動を行う場合は、林床の踏み荒らしを極力回避する必要がある。

【特記事項】

小型で見つけにくい植物なので、ていねいに調査すれば新産地が追加される可能性もある。調査時には、特に注意が必要である。2015 年版と比較すると階級が変更になっただけであるが、記述内容に大幅な変更が生じたので、特に掲載した。

【関連文献】

保草本Ⅲp.70, 平草本Ⅰp.63, 平新版Ⅰp.146, SOS 旧版 p.97+図版 3, SOS 新版 p.74, 愛知県 p.579.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

ホンゴウソウ *Sciaphila nana* Blume

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、県内分布階級 2、総点 12。腐生植物で、愛知県では最近多くの新産地が発見されているが、名古屋市では 2019 年に初めて生育が確認された。生育地は 1 ケ所だけであるが、この場所は保護されており、森林化進行の影響も受けないことから、人為圧はなし（階級 1）として評価した。

評価区分

名古屋市 2020	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2020	国リスト
環境省 2020	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

多年生の腐生植物。地下に白色の根茎がある。地上茎は極めて細く、直立してまばらに分枝し、高さ 3~13cm になる。葉は鱗片状で長さ約 1.5mm、茎と共に紫褐色である。花期は 7~10 月、茎や枝の先端に長さ 0.5~2cm の総状花序をつけ、4~15 個の花をつける。花は単性で、花序の下部は雌花、上部は雄花となる。雄花は直径約 2mm、花被は 6 裂し、うち 3 個は大きく、他の 3 個は小さく先端に球形の付属体をつける。果実は多数の心皮が集まり、球形で直径約 2mm の集合果となる。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（東山植物園、西部めぐみ s.n., 2019-9-4, NBC）。

【県内の分布】

名古屋市以外では、8 鳳来北東部、18 田原西部、20 足助、21 下山、24 豊田東部、25 豊田北西部、28 額田、29 岡崎北部、30 岡崎南部、37a 瀬戸の 10 区画で確認されている。12 新城、46b 大口、53 一宮東部で採集された標本もあり、このうち一宮東部の自生地は国指定天然記念物であった。

【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球にややまれに生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

暗い林の下の落葉の間に生育する。名古屋市内では、湿地周辺のササ群落内や落葉広葉樹林の林床に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

2019 年には、数 m² の範囲で、50 株程度が確認された。過去からの増減は不明である。

【保全上の留意点】

今回生育が確認された場所は植物園内で、管理者も本種の存在を意識しているので、当面消失の恐れはない。他の産地を探索することも重要である。

【特記事項】

和名は、三重県楠町本郷で最初に発見されたからである。本種は、レッドデータブックあいち 2001 植物編では「絶滅」とされていたが、同 2009 年版では自生地が 4 カ所記録され、その後も新産地が次々と見つかって、2015 年の県第 3 次レッドリストでは準絶滅危惧になり、レッドデータブックあいち 2020 ではリスト外と判定されるに至った。愛知県全体で見れば、里山の森林化により、近年急激に増加している植物と思われる。ただし、新産地の多くが開発事業に伴う環境影響評価のための調査で発見されていることから明らかなように、開発圧力も大きい。

【関連文献】

保草本Ⅲp.391, 平草本Ⅰp.19, 平新版Ⅰp.152, 環境省 p.546, 愛知県 p.676, SOS 旧版 p.91.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

ザイフリボク *Amelanchier asiatica* (Siebold et Zucc.) Endl. ex Walp.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布階級 1、補正+1(遷移進行)、総点 12。2015年版ではリスト外と判断した植物であるが、名古屋市では近年、見かける機会が著しく減少している。

評価区分

名古屋市2020	絶滅危惧II類
愛知県2020	リスト外
環境省2020	リスト外

【形態】

落葉性の亜高木。よく育ったものは高さ 10m 以上になる。枝は若時に暗紫色、のちに黒褐色となる。葉は互生し、長枝ではまばらに、短枝では接近してつき、長さ 1~2cm の柄があり、葉身は楕円形~卵状楕円形、長さ 4~8cm、幅 2.5~4cm、先端は鋭頭、基部は円形~浅い心形、辺縁には細鋸歯があり、裏面は幼時白軟毛を密生するが、成葉ではほとんど無毛となる。花期は 4 月、花は 5~12 個が総状につき、花序軸は長さ 2~4cm、花柄は長さ 1~2.5cm、花弁は 5 個で白色、倒披針形~線状楕円形、長さ 12~15mm、幅 2~4mm、円頭である。果実はほぼ球形、直径 6~8mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区(東谷山, 鳥居ちゑ子 1570, 1999-4-17)、千種区(不老町, 渡辺幸子 3742, 1999-4-15)、天白区(八事裏山, 渡辺幸子 2036, 1995-4-24, NBC)、瑞穂区(茨木町, 渡辺幸子 2018, 1995-4-23)。

【県内の分布】

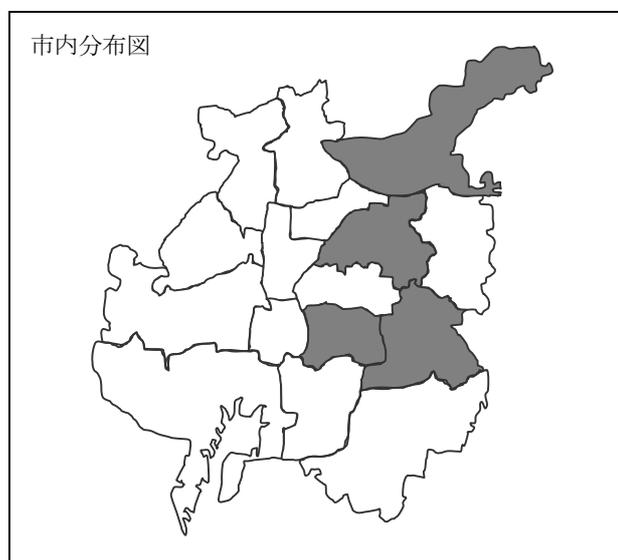
名古屋市のほか、1 富山、4 津具、6 設楽西部、8 鳳来北東部、9 鳳来南部、13 豊川、18 田原西部、5 稲武、19 旭、20 足助、23 藤岡、24 豊田東部、25 豊田北西部、29 岡崎北部、30 岡崎南部、37a 瀬戸、38a 長久手、45 犬山、48 春日井の 19 区画で確認されている。15 豊橋北部で採集された標本もある。

【国内の分布】

本州(岩手県以南)、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。



【生育地の環境/生態的特性】

雑木林の林縁などに生育する。

【現在の生育状況/減少の要因】

以前は名古屋市内でも点在していたと思われるが、2019年になごや生物多様性保全協議会里山社寺林部会が調査した未発表資料によれば、開花個体は名古屋市内では守山区小幡緑地で 5 株、名東区明德公園で 1 株、千種区平和公園で 1 株、天白区相生山で 1 株の計 8 株確認できただけだったそうである。今回はこの結果をもとに、個体数階級を 3 として評価した。里山二次林の遷移進行に伴う被陰が、衰退の主原因と思われる。見落としがあれば個体数階級 2、総点 11 で準絶滅危惧になるかもしれないが、その場合でも次の見直しの時には絶滅危惧II類になってしまう可能性が高い。

【保全上の留意点】

個別的な保全が必要である。本来ならば適宜伐採を行い、さまざまな遷移段階が混在した里山二次林を維持することが重要だが、これは現実問題としては難しい。

【特記事項】

開花期には白い花がよく目立つ樹木で、和名(采振木)はこの花序を采配に見立てたものである。シデザクラとも呼ばれる。

【関連文献】

保木本II p.27, 平木本I p.217, 平新版3 p.59.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

ミズオトギリ *Triadenium japonicum* (Blume) Makino

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、
県内分布階級 1、総点 12。湿地性の植物で、名古屋市では 2017
年に初めて確認された。既知の生育地は 1 カ所だけである。

評価区分

名古屋市 2020	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県 2020	リスト外
環境省 2020	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 30~100cm、分枝しないか、中部から少数の枝を出す。葉は対生し、ほとんど無柄、葉身は長楕円形~長卵形、長さ 4~8cm、幅 1.3~2cm、明点が多く、先端は通常円頭、基部は下方の葉では鈍形だが上部の葉では浅い心形となる。花期は 8~9 月、花序は茎の先端と上部数対の葉腋につき、長さ 2~15mm の柄がある。花は一つの花序に 1~5 個つき、一日花で午後開花し、直径約 10mm、花弁は 5 個で淡紅色、狭倒卵形~楕円形、長さ 6~7mm、幅 2~3mm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区(牧野ヶ池緑地、村松正雄 29788, 2018-9-9, NBC)。

【県内の分布】

愛知県では、それほど多くはないがあちこちに点在しており、尾張でも名古屋市のほか 37a 瀬戸、38a 長久手、41a 東海、44b 南知多で確認されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ロシア沿海部。

市内分布図



【生育地の環境/生態的特性】

低湿地に生育する。

【現在の生育状況/減少の要因】

名古屋市では池岸の低湿地に、十数株が生育していた。過去からの増減は不明である。

【保全上の留意点】

生育地の湿地の保全が必要である。池が富栄養化すると湿地に大形草本が茂るので、水質維持にも注意する必要がある。

【関連文献】

保草本Ⅱp.63, 平草本Ⅱp.113, 平新版 3p.247.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

スズメノカタビラ (水田型) *Poa annua* L. subsp.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布階級 1、総点 11。名古屋市では生育地が少ない。十分に検討されていない植物であるが、減少傾向にある。

評価区分

名古屋市 2020	準絶滅危惧
愛知県 2020	リスト外
環境省 2020	リスト外

【形態】

越年生草本。茎は叢生し、高さ 15~35cm になる。葉身は線形、長さ 5~8cm、幅 2.5~5mm、葉舌は白色で大きい。花期は 3~4 月、円錐花序は広卵形で、長さ 4~7cm、枝は双生し、平滑、斜上または開出する。小穂は卵形~長卵形、長さ 4~6mm、通常紫色を帯びる。各地の路傍等に普通に見られるアオスズメノカタビラ subsp. annua は、おそらくヨーロッパ原産の帰化植物で、全体に小型で葉の幅も狭く、小穂は緑色である。しかし、中間的な形態の個体も見られる。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区 (引山, 鳥居ちゑ子 3721, 2018-3-14), 西区 (庄内緑地公園, 芹沢 91893, 2017-4-29), 港区 (庄内川河口, 芹沢 93855, 2018-4-14)。

【県内の分布】

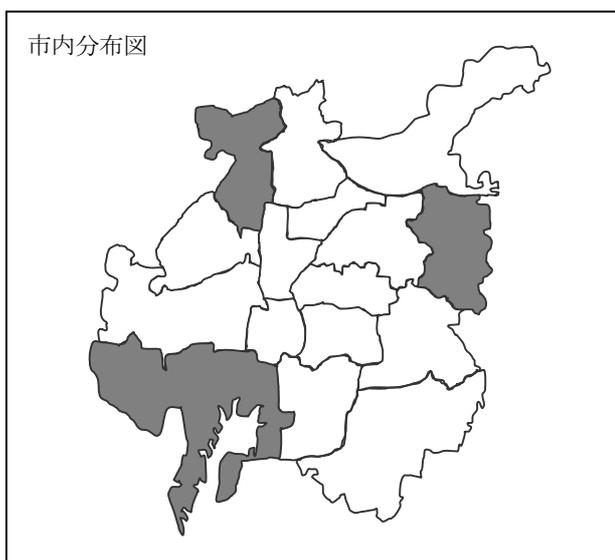
名古屋市のほか、3 東栄、13 豊川、15 豊橋北部、17 田原東部、5 稲武、20 足助、21 下山、28 額田、29 岡崎北部、33 安城、37a 瀬戸、40b 東浦、42b 半田、43 常滑、45 犬山、46b 扶桑、47 小牧、48 春日井、56b 大治、57b 愛西、58c 飛島などで確認されている。

【国内の分布】

本州中南部と四国に分布しているが、それ以上はよくわからない。

【世界の分布】

不明。



【生育地の環境/生態的特性】

通常は耕起前の水田雑草である。しかし名古屋市では、河川敷などの湿った場所にも生育している。

【現在の生育状況/減少の要因】

庄内緑地公園では園内の水路に生育していた。その場所の泥がさらわれたため現在は確認できないが、そのうちに再出現すると思われる。庄内川河口では、少数株が確認されただけである。

【保全上の留意点】

雑草的な植物なので、現実問題として、現地での長期的な保全は困難である。域外保全が必要かもしれないが、その必要性を判断するためにも、まずは確実な標本資料の蓄積が求められる。

【特記事項】

四国の山奥では、山中の路傍に生育しているのを見たことがある。おそらくは以前はさまざまな環境の場所に生育していたが、アオスズメノカタビラに駆逐されて、水田以外の場所では消失してしまったのであろう。ただしアオスズメノカタビラとの関係については、予備的にアロザイム酵素多型解析と核 DNA 含量測定を行った範囲では、顕著な差を検出できなかった。今後更に詳細な遺伝的解析を行う必要がある。

【関連文献】

野坂志朗・芹沢俊介. 2013. 春の野の花 (第 6 版) p. 55. 愛知みどりの会, 大治.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

コギシギシ *Rumex dentatus* L. subsp. *klotzschianus* (Meisn.) Rech.f.

評価区分

名古屋市2020	準絶滅危惧
愛知県2020	国リスト
環境省2020	絶滅危惧II類

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布階級 1、総点 11。新産地が 2 カ所で確認されたため全体としては準絶滅危惧になるが、在来系統らしいものと帰化系統の疑いがあるものが混在しており、在来系統らしいもの（狭義コギシギシ）に限れば集団数階級 3、県内分布階級 2、総点 13 で、絶滅危惧 II 類と評価される。

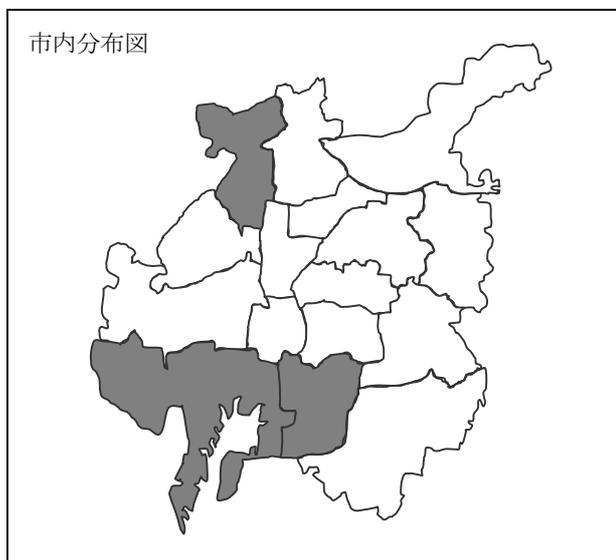
【形態】

多年生草本。高さは通常 30～50cm である。茎の下部の葉には長い柄があり、葉身は長楕円状披針形～披針形、長さ 5～10cm、幅 1.5～3.5cm、先端は鈍頭、基部は広いくさび形～浅い心形、辺縁はやや波状になり、両面とも無毛である。上部の葉は互生し、次第に小さくなる。花期は 4～5 月、果実をかこむ花被片は卵形で長さ 4mm 程度、辺縁に顕著な刺毛があり、中肋のこぶ状突起は長卵形で、長さは花被片の約 2/3 である。在来系統と思われる茎が紅色を帯びて直立し分枝の少ない型（狭義コギシギシ）と、帰化系統の疑いがある茎が緑色で基部からよく分枝する型（ミドリコギシギシ）があるが、時に中間的な形態のものも出現する。

【分布の概要】

【市内の分布】

狭義コギシギシの型は 南区（大江川，渡辺幸子 4658, 2001-5-6），港区（野跡庄内川，芹沢 93859, 2018-4-14；南陽町西茶屋，芹沢 79165, 2004-5-10）などで採集されている。ミドリコギシギシの型は、西区（水場川，芹沢 95158, 2019-5-12）、港区（大江川，芹沢 77166, 2001-4-9；野跡庄内川，芹沢 93859B, 2018-4-14；南陽町大西，芹沢 79159, 2004-5-20）などで採集されている。



【県内の分布】

狭義コギシギシの型は、名古屋市のほか、豊川、豊橋南部、田原東部、東浦、東海、犬山、北名古屋、清須、あま、大治（区画数としては 8）で確認されている。ミドリコギシギシの型は、名古屋市のほか、田原東部、田原西部、刈谷、東浦、東海、常滑、岩倉、豊山、北名古屋、清須、あま、飛島（区画数としては 9）で確認されている。

【国内の分布】本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

狭義コギシギシの型は、耕起前の水田雑草として出現することが多い。河川敷などに生育することもある。ミドリコギシギシの型は、低湿地のほか、路傍の荒地などにも出現することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

狭義コギシギシの型は個体数が少なく、なかなか継続的に観察できない。一方で未整理耕地の減少、他方で都市化の進行に伴う水田の消失が、減少の主要因である。ミドリコギシギシの型も、出現はやや偶発的である。

【保全上の留意点】

狭義コギシギシの型については、個別的な保全が必要である。ミドリコギシギシの型については、さしあたり配慮する必要はない。

【特記事項】

エゾノギシギシに似ているが、葉は小さく、裏面は無毛である。また、エゾノギシギシが他のギシギシ類よりやや遅く開花するのに対し、本種は他のギシギシ類よりやや早く開花する。表記学名は、多分ミドリコギシギシに当たる。2015 年版と比較すると階級が変更になったただけであるが、記述内容に大幅な変更が生じたので、特に掲載した。

【関連文献】

保草 II p.296, 平草 II p.16, 平新版 4 p.104, 愛知県 p.688, 環境省 p.393, SOS 旧版 p.48, SOS 新版 p.139,140.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

ムサシモ *Najas ancistocarpa* A.Br. ex Magnus

評価区分

除外理由

環境省および愛知県のレッドリストに掲載されている種類であるが、名古屋市では新しく造成された水田に生育していて造成時に使用された土に混入して移入された可能性が高いため、今回は評価の対象から除外しておく。

名古屋市2020	国・県リスト
愛知県2020	絶滅危惧IB類
環境省2020	絶滅危惧IB類

【形態】

沈水性の1年生草本。茎は細く、よく分枝し、折れやすい。葉は多少なりとも反り返り、細く線形、長さ1~2cm、辺縁には細かい鋸歯がある。葉の基部は長さ約1.5mmの葉鞘となり、葉鞘の先端は円くて小刺がある。花期は7~9月、雌雄同株で、花は葉腋につく。果実は1個の種子があり、種子は長さ約2.5mm、三日月形に湾曲し、表面にはやや縦に長い不明瞭な網目がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（田代町、滝川正子 1, 2014-9-29, NBC）。

【県内の分布】

自生と思われるものは、豊橋北部、田原西部、常滑の3区画で確認されている。移入と思われる集団は、名古屋市のほか東浦にもある。

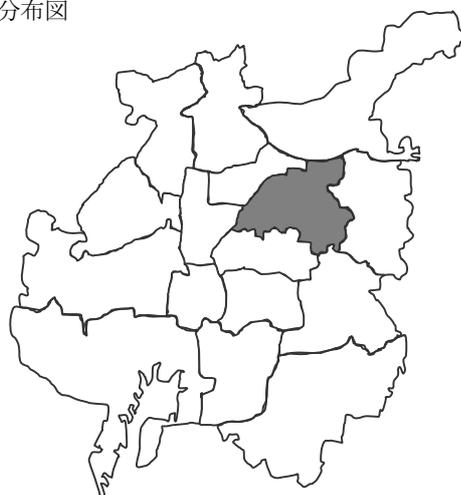
【国内の分布】

本州（関東地方以西）および四国。

【世界の分布】

日本および台湾。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は平野部や浅い丘陵地のため池に生育する。名古屋市の生育地は新しく造成された水田である（小菅・寺本 2017）。

【現在の生育状況／減少の要因】

量的な記述はない。

【保全上の留意点】

茎葉はイトトリゲモに似ているが、やや小型である。種子があれば著しく湾曲しているため、識別は容易である。なお、小菅・寺本（2017）では本種のほかにトリゲモが報告されているが、名古屋多様性センターに収蔵されている標本の状態が悪く、同定を確認できない。

【引用文献】

小菅崇之・寺本匡寛. 2017. 東山の水田における雑草調査. 平成28年度活動報告書資料編（水辺の生き物部会）56-60. なごや生物多様性保全協議会, 名古屋.

【関連文献】

保草本Ⅲp.409, 平草本Ⅰp.18, 平新版Ⅰp.122, 環境省p.306, 愛知県p.232., 角野康郎.1994. 日本水草図鑑 p.56. 文一総合出版, 東京.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

ホルトノキ *Elaeocarpus zollingeri* K.Koch

評価区分

【評価理由】

愛知県では渥美半島と知多半島先端部に自生する植物で、名古屋市内に生育しているものは植栽木またはそれからの種子に由来するものと思われ、評価の対象にならない。

名古屋市2020	県リスト
愛知県2020	絶滅危惧II類
環境省2020	リスト外

【形態】

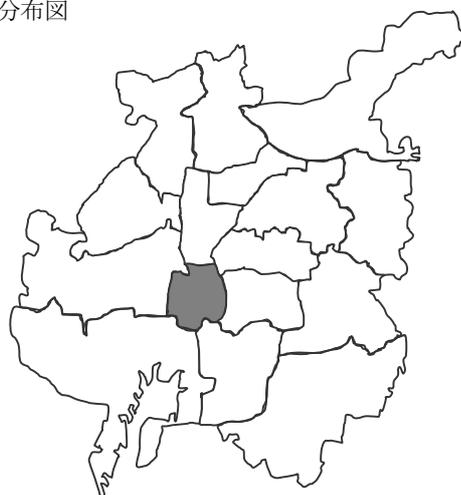
常緑性の高木。高さ20mくらいになり、上部でよく分枝して円い樹冠を形成する。葉は互生し、枝先に集まる傾向があり、長さ1cm前後の柄があり、葉身は倒披針形～長楕円状披針形、長さ5～12cm、幅1.4～3cm、先端は鋭頭、基部も鋭形、辺縁には低い鈍鋸歯がまばらにある。葉の表面は深緑色であるが、しばしば紅色の老葉がまじる。花期は6～7月、前年枝の葉腋から長さ4～8cmの総状花序を出し、多数の白色の花をつける。果実は長卵状楕円形、長さ1.5～2cmである。

【分布の概要】

【市内の分布】

熱田区（白鳥古墳，芹沢 95528, 2019-7-20）。この個体は開花するまでに生長していたので、特に標本を作成した。おそらくは植栽木由来と思われるが、本来の自生である可能性も皆無ではない。明らかに植栽木由来と思われる幼木は、他にもあちこちで見られる。

市内分布図



【県内の分布】

自生と思われるものは、渥美半島と知多半島先端部（区画としては16豊橋南部、17田原東部、18田原西部、44a美浜の4区画）に生育しているだけである。

【国内の分布】

本州（千葉県南部以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸、インドシナ。

【生育地の環境／生態的特性】

常緑広葉樹林に生育するが、街路樹や庭園木としても広く植栽される。

【現在の生育状況／減少の要因】

開花・結実するまでに生長したものは、白鳥古墳以外では見えていない。

【保全上の留意点】

白鳥古墳は特別緑地保全地区として保全されており、この場所のものは将来とも存続すると思われる。明らかに植栽木由来と思われる幼木については、特に配慮する必要はない。

【特記事項】

モガシとも言う。

【関連文献】

保木本Ⅰp.236, 平木本Ⅱp.63, 平新版3p.143, 愛知県p.497.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

サクラガンピ *Diplomorpha pauciflora* (Franch. et Sav.) Nakai

【評価理由】

環境省レッドリストに掲載されている種類で、名古屋市では1回採集されただけであるが、おそらく移入で、評価の対象にならない。

評価区分

名古屋市2020	国リスト
愛知県2020	国リスト
環境省2020	絶滅危惧II類

【形態】

落葉性の低木。よく分枝し、高さ2mくらいになる。葉は互生し、愛知県で採集されたものでは長さ1.5~3mmの柄があり、葉身は卵状楕円形、長さ2.5~4.5cm、幅1.3~2cm、先端は鋭頭~鈍頭、基部は広くさび形、全縁で両面に毛がある。花期は7月上旬に咲き始めの状態で、枝端にまばらな円錐花序をつくり、淡黄色、がく筒は長さ5~6mmであった。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（小幡緑地、鳥居ちよ子 3564, 2016-7-6）。

【県内の分布】

名古屋市以外では確認されていない。

【国内の分布】

本州（関東地方南部、伊豆半島）。

【世界の分布】

日本固有種。



【生育地の環境／生態的特性】

自生地では山中の溪側に生育するという。名古屋市では公園内の遊歩道わきに生育していた。

【現在の生育状況／減少の要因】

1株だけであったが、意図的に植えられたものには見えなかったとのことである。2018年に現地に行ったときには見当たらなかった。

【保全上の留意点】

本来の自生ではないと思われるので特に配慮する必要はないが、愛知県での記録は少ないので、見かけたら標本を作成しておいてほしい。

【特記事項】

キガンピに似ているが、葉は明らかに互生し、茎と共に毛が多い。

【関連文献】

保木本 I p.226, 平木本 II p.82, 平新版 4 p.40, 環境省 p.451, 愛知県 p.686.

(西部めぐみ 芹沢俊介)

希少偶産種

今回のレッドリストで希少偶産種または希少な非意図的移入種として評価の対象から除外した種は、国・県リストに掲載したムサシモとサクラガンピを除くと、以下の4種である。ホッソモ（2015年版EX）も千種区（田代町）のムサシモと同じ場所で現存が確認されたが、ムサシモと同様造成時に使用された土に種子が混入して移入された可能性が高く、評価はこの集団を除外して行われた。

カナクギノキ *Lindera erythrocarpa* Makino（被子植物Ⅰ群 クスノキ科）

緑区（大高緑地，長谷川泰幸 s.n., 2016-8-18, NBC2143）。「樹高 2.45m……全体に枝数も葉数も少なく……」と書かれている（長谷川 2017）。背丈よりは高いが1本だけとのことなので、まだ定着していないと判断するのがよさそうである。

引用文献：長谷川泰幸. 2017. 名古屋市におけるカナクギノキの初記録. なごやの生物多様性 4:83-87.

カエデドコロ *Dioscorea quinquelobata* Thunb.（被子植物Ⅱ群 ヤマノイモ科）

千種区（田代町，中島ひろみ 619, 1998-8-13）、天白区（牧野ヶ池緑地，渡辺幸子 5455, 2003-9-17；道明町天白川堤，渡辺幸子 3558, 1998-7-23）で採集されているが、いずれも開花しておらず、現状では定着していると言い難い。移入の可能性もある。中区（三の丸，芹沢 93220, 2017-9-8）の標本は開花しているが、これは明らかに移入である。愛知県では分布域が限られている植物で、名古屋市のほかは17 田原東部、18 田原西部、23 藤岡（移入？）、36b 南知多、47 小牧（移入？）で確認されているだけである。

キツネノカミソリ *Lycoris sanguinea* Maxim.（被子植物Ⅱ群 ヒガンバナ科）

守山区（下志段味庄内川堤防，鳥居ちゑ子 463, 1993-8-17）で採集されているが、上流から流されてきて一時的に生育していたものと思われる。

ボタンヅル *Clematis apiifolia* DC.（被子植物Ⅲ群 キンポウゲ科）

天白区（土原一丁目，渡辺幸子 2287, 1995-8-9）で採集されているが、葉のみの標本である。2018年にも同所に生育しているのが確認されたが、やはり1株だけで開花しておらず、現状では定着していると言い難い。

ヤマハンノキ *Alnus hirsute* (Spach) Turcz. ex Rupr. var. *sibirica* (Spach) C.K.Schneid.（被子植物Ⅲ群 カバノキ科）

緑区（鳴海町笹塚，渡辺幸子 3701, 1999-3-18）で採集されているが、その後確認できず、一時的に生育していたにすぎないと思われる。

ラセンソウ *Triumfetta japonica* Makino（被子植物Ⅲ群 アオイ科）

中村区（松原町，鶴岡佐知子 148, 1992-9-7）。もともと偶発的に出現することが多い植物である。名古屋市でも1回採集されたことがあるだけで、定着していたと言い難い。

クマノミズキ *Cornus macrophylla* Wall.（被子植物Ⅲ群 ミズキ科）

守山区（天子田，鳥居ちゑ子 924, 1995-6-17）で採集されているが、種子が鳥に運ばれて一時的に生育していたものと思われる。

タカアザミ *Cirsium pendulum* Fisch.（被子植物Ⅲ群 キク科）

緑区（鳴海町，渡辺幸子 3253, 1997-10-19）と中村区（城屋敷町，芹沢 68945, 1993-11-1）で採集されているが、いずれも土木工事跡地に1株だけ生育していたもので、次に行ったときには消失していた。